

## 政務調査研究視察 報告書

報告者：加藤 義幸

視 察 日	平成22年8月5日（木）
視 察 内 容	山形市学校給食センターについて
視 察 者	近藤隆志,小野政明,山本雅宏,蜂須賀喜久好,田口正夫,山崎憲伸,園山康男,神谷寿広,吉口二郎,加藤義幸

### 山形市の概要

山形市は、戦国大名・最上義光時代に城下町の建設が行われ、現在の市街地の原型を形成。江戸時代は紅花商人のまちでもあった。近年、山形新幹線や高速交通網整備に伴い、広域交通条件が飛躍的に向上している。

平成18年にこれまでの基本構想を見直し、基本計画を経営計画として一新し、平成18年度末に山形市第7次総合計画の策定を完了した。現在は、めざす将来都市像を、基本構想の中の『みんなで創る「山形らしさ」が輝くまち』とし、その実現に市民、事業者、行政の共創により取り組んでいる。



### 学校給食センター

#### <施設概要>

山形市学校給食センターは、市立小・中学校全52校を対象とする学校給食の共同調理場。PFI方式に基づいて建設され、平成21年4月オープン。危機管理の面からもA・B2つの調理棟をそえた。

- \* 敷地面積 34,160.08 m<sup>2</sup>
- \* 建築面積 7,987.66 m<sup>2</sup>（付帯施設含む）
- \* 延床面積 9,270.74 m<sup>2</sup>（付帯施設含む）
- \* 構造等 鉄骨造 2階建
- \* 調理能力 22,000食
- \* 業務分担 山形市：献立作成,食材調達,食数管理,栄養指導等  
 (株)山形学校給食サービス：調理業務,施設設備の維持管理等

#### <主な特徴>

- ①旧施設と比べ、敷地は約3倍、建物は約2倍に広がった。
- ②調理業務と施設の維持管理業務を民間に委託した。(PFI方式)
- ③ウェットシステムがドライシステムになるなど、調理場のシステムが変わり、作業面及び衛生面の充実が図られた。
- ④衛生面では、汚染区域と非汚染区域がより厳密に区分されるとともに、エアシャワーを設置し、手洗い場を随所に多数設けるなど、きめ細かな配慮がほどこされた。
- ⑤献立については、旧センターのときは、計4献立としていたが、地産地消の推進を図るため、新センターでは1日につき計6献立とした。
- ⑥平成22年1月から、卵及び乳製品のアレルギー対応食を提供している。
- ⑦丸食缶と角食缶が保温性の高いものになり、食缶のフタの部分にはこぼれ防止のクリップがつき、より安全性の保たれる食缶となった。
- ⑧食器の材質については、従前の「ポリプロピレン」から汚れが付きにくい、綺麗さが長期間保たれるという「PEN樹脂(ポリエチレンナフタレート)」製の食器を使用している。
- ⑨旧センターでは、施設のスペースの関係で、焼き物用の調理器を設置出来なかったが、新センターにはコンベクション・スチーム・オーブンという焼き物もできる機器の導入で、

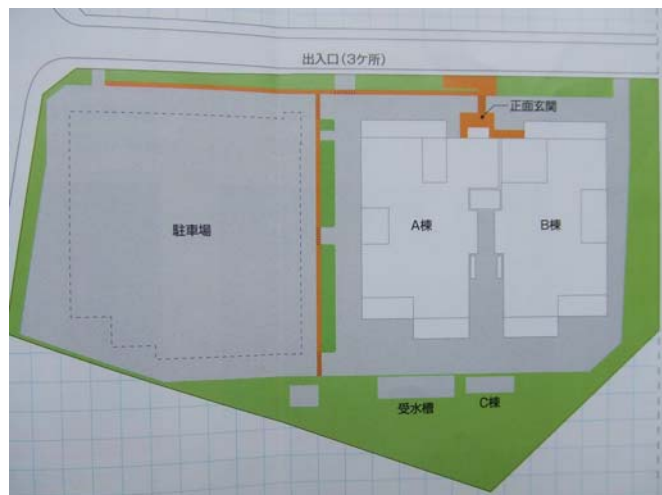
「焼き魚」「肉の付け焼き」などのメニューの多様化が図られ、「ハンバーグ」「オムレツ」なども焼き物機で調理することから、よりおいしくなり、喜ばれている。

<PFI方式のメリット>

- \* BTO事業方式で、国庫助成が受けられ、SPCにとっても税法上有利。
- \* 15年間で約35億円の財政負担軽減が見込まれる。
- \* 民間ノウハウの活用により、より安全でより質の高いより喜ばれる給食の提供が可能になった。

<当初の課題>

- ①PFI方式の学校給食センターであっても、安心・安全でおいしいと言われる学校給食に努めなければならない。
- ②市のセンター整備運営事業要求水準書に基づく、運営が適正に実施されているかの確認。
- ③受託会社との協議会を開催し、必要事項についての調整や情報の共有を図る。



#### [感想・岡崎市への反映]

山形市は、構想から、7年間で費やして、よりよい学校給食センターの建設運営方法について研究を重ね、平成21年4月オープンした。初のPFI導入という事で課題も多かったと思われるが1つ1つ市当局の努力により解決を図ってきたことは賞賛に値する。運営上の課題もSPCとの連絡協議を密にすることで解消されている。

PFI導入は、経費節減はもとより、研究・努力を惜しまぬ事で、必ず成功すると確信した。

本市に於いても今後はPFI手法による給食センター建設運営に対して、今以上に研究を重ねるべきである。

視察日	平成22年8月4日(水)
視察内容	仙台市：仙台市青葉山公園整備について
視察者	近藤隆志、山本雅宏、蜂須賀喜久好、田口正夫、山崎憲伸、園山康男、神谷寿広、吉口二郎、加藤義幸

宮  
城  
県  
仙  
台  
市

**仙台市の概要：**仙台平野の中心に位置し、江戸時代は伊達 62 万石の城下町。都心部で市街地と緑が共存する町並みから「杜の都」と呼ばれ、東北地方における経済、行政等の中枢都市であり、東北地方最大の都市である。面積 783.54 k m<sup>2</sup> 人口 1,025,098 人。  
面積：40.6ha、開園：昭和 28 年の青葉山公園は、広瀬川や青葉山の豊かな自然に囲まれた歴史と伝統の香りが漂う公園です。天主台へ向かう道路の南側には、その名のとおり堀の面影を色濃く残す「長沼」があります。春には沼沿いの桜が満開となって華やいだ風情を見せ、夏には心地よい緑陰をつくり、静かな空間は訪れる人に安らぎを与えてくれます。隣にある五色沼も緑に覆われ、多くの水鳥が羽を休めています。道路の向かい側は、仙台国際センターの庭と周囲の緑が調和し、国際交流の拠点施設としてふさわしい格調高いたたずまいを見せています。



**<仙台市青葉山公園整備について>**

**事業の目的**

青葉山公園は、仙台城址を擁し、広瀬川や青葉山の自然に囲まれた杜の都仙台を象徴する位置にあり昭和 21 年に都市決定し文化に自然を織り込んだ杜の都のシンボルにふさわしい特色ある公園として 21 世紀の百万市民が共有し、後世に伝えていく貴重な財産となるよう整備する。



**青葉山公園整備の必要性**

- ①都心に隣接する貴重な自然と緑の確保・保全を図り、広く市民の利用に供し、自然に親しむことのできるオープンスペースを創出する上で、本公園の整備が必要である。
- ②本公園は、広域避難所として位置づけられておりその機能は、西公園と一体的な避難圏域を擁していることから、都市防災上緊急に整備が必要である。
- ③仙台城址は、市民や県民ばかりでなく、全国的にも歴史的に重要な場所であり、また観光利用面からも本公園の整備が必要である。

**青葉山公園整備 五つの方針**

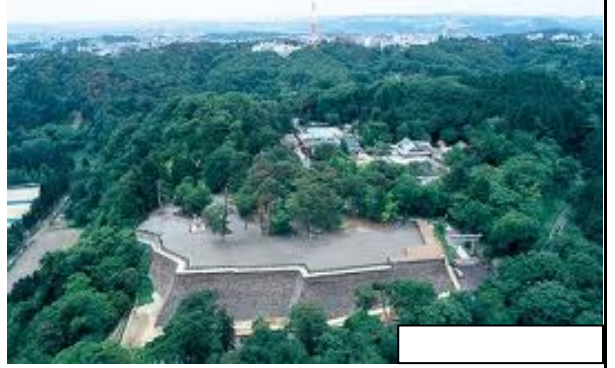
- 1. 周辺の自然や公園と連携させ、役割を分担した公園づくりをめざす。
- 2. 広瀬川がおりなす地形や道路からの軸線など地域の特色をいかす。
- 3. 杜の都仙台と品格のある公園づくりをめざす。
- 4. 100 年の杜づくりのシンボルとなる緑豊かな公園にする。
- 5. 仙台の歴史や青葉山の自然を活かした市民活動の場にする。

### 青葉山公園仙台城石垣修復事業

仙台城本丸は、仙台藩初代藩主伊達正宗公が慶長5年（1600年）に築城を開始し、同7年に完成をみたといわれております。これまで現存していた石垣は長い年月の間に老朽化が進み、特に昭和30年代後半から石垣のはらみ出しや石材の破損が目立つようになり、そのまま放置すると崩壊する危険性があるため、石垣全体を解体、積み直しにより修復する事としました。

修復にあたっては、できるだけ伝統技術を尊重しつつ安全性にも配慮しながら、往時の姿に復元することを目指して修復を行いました。工事着工後、石垣解体と並行して行った文化財発掘調査では、二期に渡る古い石垣が発見され、この度解体した石垣は寛文8年以降につくられた三期目の石垣であったことが判明するなど、石垣構築の変遷が明らかになりました。

平成10年3月に着工した仙台城本丸跡石垣の修復は、6年におよぶ長い歳月と約4,614百万円の工事費を費やし、伝統技術と現代技術の融合により、平成16年3月に無事完成しました。



### 【感想・岡崎市への反映】

仙台市では、多額の費用を費やし仙台城石垣修復工事が行われましたが、仙台城址公園に天守閣がないのがとても残念に思いました。本市岡崎公園においても、史跡岡崎城址公園として整備が進められています。また、近世以前の遺構が地下にかなり残されていることが明らかになっており、現在残されていない建物復元も可能であるとのことであります。今後は、建物復元などさらに岡崎城址整備が推進され、岡崎城址がもつ歴史的・文化的価値をさらに高めるとともに、観光資源としての有効活用も考えていく必要があると強く感じました。



視 察 日	平成22年8月6日 (金)
視 察 内 容	浦安市千鳥学校給食センターについて
視 察 者	近藤隆志 小野正明 山本雅宏 蜂須賀喜久好 田口正夫 園山康男 神谷寿広 吉口二郎 加藤義幸

## <浦安市の概要>

浦安市は千葉県西部、東京湾の奥部に位置し、三方を海や河川に囲まれたベッドタウン。西は旧江戸川を隔てて東京都江戸川区に隣接する。海面埋め立てにより市域は約4倍に拡大。東京への通勤比率は53.9%（都心3区だけでも27.9%）と極めて高い（05年）。人口は、155,290人世帯数70,389世帯。老年人口比率全国最低レベルの「若い」まち。市内舞浜地区にディズニーランドとディズニーシーを中心とする東京ディズニーリゾートがある。また、市役所庁舎を中心に、図書館、郷土博物館、文化会館、健康センターなど、行政・文化・福祉の中核的な機能が集まっている。

## 学校給食センター

### <施設の概要>

本事業は、より良い学校給食の提供を目指して、市内全市立中学校分を対象とする給食施設を整備するものである。

- \* 敷地面積 16,000.17㎡
- \* 構造 鉄骨造2階建
- \* 建築面積 4,073.53㎡
- \* 延床面積 4,773.61㎡
- \* 給食能力 13,000食

### <本施設の特徴>

#### 1) 明確なゾーニングについて

給食エリア各室とも食材の受け入れから、調理・配送に至るまで、人・食材による交差汚染が発生しないように考慮している。

#### 2) 衛生的な配慮について

給食を調理する調理室等、より衛生的な配慮が必要なエリアへの入室は、靴の履き替えや、エアシャワーの設置により、埃や食中毒菌の流入を防ぐ。

#### 3) バリアフリーへの配慮について

居室の扉を有効で80cm以上確保し、来客・共用エリアの廊下・階段には手すりを配置している。

#### 4) 残滓のリサイクルについて

安定的な残滓の有機循環を実施できる優れた方法として、メタン発酵技術を活用した「生ごみ発電」を行うことで、生ごみの全量リサイクルを原則としている。

#### 5) 地球環境への配慮について

配送車は、天然ガス自動車とすることで、残滓のリサイクルと共に地球環境への配慮をしている。



[感想・岡崎市への反映]

民間企業の技術能力等により、施設の衛生的かつ機能的な整備を図り、また運営においては、確実な衛生管理の下で、安全でおいしい給食の提供を図っている。また、施設設備等は、できる限り環境の保全に配慮し調理業務を事業範囲に含めた（PFI法）に基づく公共施設の建設、維持管理及び運営の方式を導入することで、本市におかれましても民間の運営技術能力を活かすことにより、VFM（value for money）が得られ財政支出の削減を図ることが出来ると思われます。